

『やりがいある仕事へ』

私は幼い頃から動物とスポーツが好きで、動物と一緒に出来るスポーツの乗馬に凄く魅力を感じ、高校で3年間馬術部に所属していました。そのことがきっかけで、自然と将来は好きな馬関係の仕事に就きたいと考え、BTC（軽種馬育成調教センター）の育成調教技術者養成研修を経て、競走馬育成の仕事に携わるようになりました。

牧場で働いていて感じる事です。牧場で働く前は、未来の活躍馬の育成に関わる場所という期待ばかりが先行していたように思います。しかし、それは外見の輝かしい部分しか見えていなかっただけで、実際には苦勞する事の方が多いような気がしています。だからこそ、育成やレースなどで馬が応えてくれた時の嬉しさや感動は、ひとしおに感じるのだと思います。今では管理馬がレースに出走する事を一番のモチベーションとして、馬の管理から調教に日々励んでいます。

これから牧場で働く人たちへのアドバイスとして、これまでで一番大切だと思った事は、「向上心を常に忘れない」ことです。私は人に言われた事だけをこなすだけではなく、最終的には、さらに自分でプラスαを探し、オリジナリティーを創造していくことが必要だと感じます。最初のうちは失敗しても当たり前ですし、多少の失敗はしてもいいと思います。しかし、大切なのは、失敗の後に「じゃあ、どうする?」「今回はこうしよう」という向上心だと思います。人によって手段はいろいろだと思いますが、私は今でもうまくいかない時はしょうがないだとか馬のせいにするのではなく、「じゃあ、どうする?」という事を考え、何が足りないのかを日々考えながら、いくつものパターンをトライし、毎日の仕事にあたっ

ノーザンファームしがらき 中崎 健介

第22期生（平成17年4月修了）

ています。

最初のうちは希望に満ち溢れ向上心を持っているけれど、だんだんと向上心の低下や慢心から努力を怠ったり、他人の悪い所ばかりに目が行くようになりがちに思いますが、いつまで経っても向上心を忘れず、他人の良いところを見つけることや、人の真似をすることで、日々成長して行ってほしいと思います。そうすれば、一見変わらない日々の仕事に楽しさを見つけ出せ、この仕事のやりがいを十分に感じて毎日楽しく仕事出来るようになるのではないのでしょうか。

【牧場紹介】

現在の職場は、滋賀県の信楽町にある「ノーザンファームしがらき」（栗東 TC 近郊にあるノーザンファームの一施設）です。ここでは、レースとレースの合間に帰って来る競走馬の休養やトレーニングがメインの仕事となっています。厩舎の数は9厩舎（1厩舎に30馬房）で、調教を行っているコースは、タペタの周回コース（1周900m）とポリトラックの坂路コース（直線800m）の2種類があります。牧場スタッフの年齢層が若く、活気にあふれた職場となっています。



『さらなる成長を目指して』

谷口牧場 大蔵 美保子
第29期生（平成24年4月修了）

小さい頃から馬が好きで、馬にかかわる仕事がしたいと思っていましたが、それが実現できるとは思いませんでした。深く馬とかかわることのないまま社会人になりました。しかし、一念発起。29歳で勤めていた会社を辞め、BTCの育成調教技術者養成研修に入講しました。期待とともに、多くが若い男の子であろう研修についていけるのか、という大きな不安を抱えていたことをはっきりと覚えています。事実、体力的に一番劣っているのは一目瞭然で、はじめは飼料の袋を一人で持ち上げることもできませんでした。騎乗面でも人一倍習得に時間がかかりました。だからこそ人より一層努力しなければいけないと、必死にくらいついていた1年であったように思います。そんな私を最後まで見捨てずに指導してくださった教官はじめBTC、JRA職員の方々に本当に感謝しています。もし研修に参加しなければ、たとえ牧場に就職できたとしても、今ほど馬と深くかかわる働き方はできなかったのではないのでしょうか。

養成研修修了後はアイルランド研修（3ヵ月間）に参加させていただき、アイルランドの馬の接し方を目の当たりにして大きなカルチャーショックを受けました。自分の固定観念がただの思い込みで過ぎないと感じ、そのおかげで考え方が柔軟になり視野をより広げることができました。

帰国後は(有)谷口牧場に就労し、もうすぐ1年が経とうとしています。谷口牧場では育成馬だけでなく、生産部門の繁殖牝馬、当歳や中期育成の1歳、コンサイニング馬など様々なステージの馬を扱っているため幅広い業務に携わることができ、学ぶことだらけでとても充実した日々を過ごせています。たとえば曳馬や馬見せなどは、研修時代に実習は

あったものの若馬で行うのはとても難しいです。馬をリードして、馬に一目置いてもらうようにならないといけないのですが、なかなか上手くいかず挑戦の毎日です。また、騎乗に関しても単に抑えればよいのではなく、口向きや柔軟性、後肢の踏込など馬の反応や状態をより意識するようになりました。騎乗にしる、馬の扱い、作業についてまだまだ未熟ですが、この1年で成長した部分もあり、それが自信になりもっと余裕を持って馬に接することができるようになれば、さらなる成長の手がかりになるのではないかと思います。実際にははまだ自信より、不安なことの方が多いですが、まずやるべきことをしっかりできるように頑張っていきます。

【牧場紹介】

(有)谷口牧場（浦河町絵笛）は育成部門である浦河育成センターと合わせて4ヵ所の本・分場（約50馬房）で、「心身ともに丈夫な馬づくり」をテーマに、親子・1歳馬の昼夜放牧をメインとした生産・育成とセリのコンサイニング、そしてナチュラルホースマンシップを採り入れた人馬ともに安全な馴致・調教を行っています。また、調教施設は内馬場800mトラックとともにBTCの各施設を利用しています。

